

大国主神と印欧語族の三機能システム

吉田敦彦（学習院大学）

大国主神が『古事記』や『日本書紀』が伝える日本神話の主人公の一人であることは言うまでもない。『日本書紀』で大国主神は、矛を杖として使って国を治めることが出来たと自ら誇っている。この神が大きな矛を最も大事なものとして愛でたことは明らかだ。だがしかし、この矛は武器でありながら、敵を平らげるには用いられず、彼が支配する地を旅しながら大地をくだき伏せるために用いられている。問題となる矛は、デュメジルが印欧語族の三機能システムと呼んだものの第三機能を象徴する道具ではないだろうか。日本神話は全体として明らかに三機能に沿って構造化されており、矛の所有者の大国主神は、第三機能を代表する神とされているのである。